

東京カンテイ、直近の東京23区新築マンションの専有面積分布を調査

80㎡台の住戸シェア減少、20～50㎡のシェア拡大顕著

少子化・小世帯化、景気低迷の長期化などが影響し、専有面積の狭い住戸が“売れ筋”に

●東京23区では50㎡未満の供給が増加

直近(2009年～2012年6月)に分譲された東京23区・新築マンションの専有面積帯別供給戸数シェア構成では、10年前と比較して80㎡～90㎡台型の住戸が減少しているのに対して、50㎡未満のシェアが大きく上昇しており、東京23区ではワンルームタイプやコンパクトマンションが数多く供給されていることがわかった。

1㎡ごとの専有面積の分布を見ると、10年前は75㎡のシェアが5.28%と最も高かったが、直近では70㎡のシェアが6.71%と最も高くなっている。小人数世帯の増加を反映してマンションの専有面積は縮小する傾向にある。

東京23区 新築マンションの専有面積帯別供給戸数とシェア

	10年前		現在	
	戸数	シェア(%)	戸数	シェア(%)
20㎡台	9784	8.6	9760	14.9
30㎡台	3929	3.4	4342	6.6
40㎡台	3618	3.2	5829	8.9
50㎡台	13224	11.6	8914	13.7
60㎡台	24763	21.7	12328	18.9
70㎡台	33114	29.1	17228	26.4
80㎡台	14077	12.4	4505	6.9
90㎡台	5795	5.1	1222	1.9
100㎡～120㎡	4444	3.9	691	1.1
その他	1150	1.0	475	0.7
合計	113898	100.0	65294	100.0

